**2020年度しおあなの森保育園事業報告**

堺中央共生会しおあなの森保育園が設立して9年目が終了した。今年度は25名が入園し計131名でスタートした。また30名の子どもたちが、しおあなの森保育園で過ごした経験を胸に各小学校へと巣立っていった。

**1．保育について**

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、４月８日(水)から登園の自粛、家庭での保育協力をしていただくこ

とになった。４月１５日(水)から５月６日(水)までは原則休園となり、医療従事者等、社会の機能を維持するため

就業を継続することが必要な家庭や事情がある家庭は継続して保育を行った。緊急事態宣言が解除されてからは

三密を避ける、間仕切りをして食事する、玩具等の消毒をするなど対策を講じた生活が日常になった。プール遊

び、夏まつり、異年齢交流など、中止を余儀なくされた行事もあり、後期は縮小、プログラムの変更をしながら

子どもたちの成長の節目となる行事を行うことができた。運動会は乳児は普段の運動遊びの様子を動画で見てい

ただいた。幼児は保護者入れ替え制で行うことができた。生活発表会では５歳児のみ無観客で行い、DVDを各

家庭に配布した。５歳児以外のクラスは日々の表現遊びの取組を写真と文章でファイルを作り、保護者に見てい

ただいた。日常の保育については、広い園庭、ホールを利用して十分に体を動かすことができ、子どもたちが心

身を開放して遊ぶことができたことはありがたかった。菜園で虫捕りや野菜を育てることもできた。クッキング

は三密になるためできなかったが、収穫した野菜を家庭に持って帰っていただいたことで、菜園活動を知ってい

ただく機会になり、子どもと一緒に収穫した野菜を調理する等、食育につながった。お昼ごはん、３時のおやつ

に「花野菜サラダ」「親子どんぶり」「カレーマン」など、１０個の新メニューを提供した。普段あまり食べない

子や偏食気味の子どもたちも、興味をそそられ食事を楽しむ姿があった。

　昨年、会議で確認したしおあなの森保育園が「目指す子ども像」(今を最も輝いて生きる・自立した人間の基礎を身につける・人権を大切にする)を柱に各年齢で年間計画をたて保育してきた。今の時代は、質の高い幼児教育を受けることが、その後の人生を豊かにするというデータがでている。「人権を大切にする」ことも含めて改めて全職員で共通認識し、保育内容に反映させていきたい。また、お便りや写真付きのドキュメント等、より具体的に保護者に発信し、しおあなの森保育園の保育内容を理解していただくよう努める。

今年度の苦情件数は２件で、どちらも保育士の対応についてだったので、保護者と園長、関係職員で話し合い解決することができた。今後も苦情や意見を言いやすい環境や人間関係を大切にし、受け付けた時は丁寧に説明し、保護者に納得していただける園を目指していきたい。第三者委員さんには引き続き、委員をしていただいた。

**２．延長保育の利用について**

今年度は延べ195件あり、今後も保護者の就労状況に伴う延長保育のニーズに応えていきたい。

**３．一時預かり・園庭開放・子育て支援**

一時預かりは３件、乳児保育全戸訪問は５件、園庭開放は４回行うことができた。園庭開放はほとんど中止となったが、どこへも出かけられないためか、電話での問い合わせが多数あった。コロナ対策をしながら、園庭あそびを2回、クリスマス会でサンタさんにプレゼントをもらう回、劇団「若駒」さんのベビーシアター観劇にも参加していただくなど開催することができ、参加した子どもたちは楽しんでいた。保護者同士の交流の場にもなった。来年度はホームページも活用していろいろな情報を発信し、保育園に来なくても子育てを楽しんでいただくよう取り組んでいきたい。

**４．地域との交流について**

　大仙西、新湊への小学校見学は中止になったが、その代わりに児童による小学校紹介のDVDをいただいた。子どもたちは小学校入学を期待と共に不安な気持ちももっていたので、心のこもったDVDを見て、安心して就学を迎える手助けとなった、お礼の手紙を小学校に届け、交流をすることができた。コロナ収束後は、地域の施設との異世代交流、デイキャンプの布袋湯体験など、再開していきたい。

**５．研修について**

緊急事態宣言発出中は職員交代でテレワークをし、「年齢の発達の特徴」「運動遊び」「表現あそび」、他職種は「食育」「事務」などの自主研修のテーマにした。園内研修は「新人研修」、「表現あそび」「運動遊び」に力を入れて取り組んだ。また、民間保育園保育士交流はZOOMを活用できたので参加することができた。　来年度は職員一同、園内研修や、園外の様々な形式の研修にも参加し、保育園全体の質の向上につなげていきたい。